

## 学会誌編集委員会委員長からのメッセージ

## より多くの方に親しまれる「品質」誌へ



(株)構造化知識研究所  
代表取締役 田村 泰彦

品質誌は、学会誌と論文誌の2部で構成されている。学会誌では品質管理の実用に関する特集や学会行事報告を紹介し、論文誌では主に投稿論文などの研究成果を掲載する。

品質誌は会員すべての方にまとまった情報を発信できる数少ない媒体である。品質誌に会員や社会全体に役立つ情報を掲載し、会員の皆様に「当学会に所属していてよかった」と感じてもらい、当学会を知る方々に「入会しよう」と思ってもらえることが品質誌の存在意義である。

「Qの確保」「Qの展開」「Qの創造」などの中期計画に基づく活動によって、当学会に関心を寄せる方が多様化している。例えば、「Qの確保」において重要性が高まる一方のソフトウェア分野の方、「Qの展開」の代表格である医療業界の方、「Qの創造」に欠かせない経営企画、商品企画の方などが当学会に関心を寄せている。さらに当学会では、ISO、TQM、品質保証、統計解析、信頼性等々を専門とする大勢の方々が活動されている。しかし、その一方当学会の会員数は減少の一途を辿っている。退会する、入会しない理由に品質誌に関心があるテーマがないことを挙げる方もいる。学会誌は精力的に特集を企画しているし、論文誌は真摯に様々な投稿論文の審査を行っている。しかし、情報収集を目的とする読者の方々の満足度はどうも高くないようである。

このような方々が読みたい、誰かに読ませたいと思う品質誌にしなければならない。学会中期計画の方針が展開された品質誌でなければならない。学会誌はこの思いに基づき、様々な施策を打つ予定である。学会誌では毎号7、8本の記事からなる特集を

掲載しているが、これだけでは各号で紹介するテーマが偏りやすい。そこで、次号(Vol.42-No.3)から、従来の特集の他、様々なテーマの連載を開始する。

特集や連載では、ソフトウェア品質、医療の質、顧客価値創造、人材育成、安全・安心、未然防止手法、実務に役立つデータ解析など様々な分野に関する最新トピックをできるだけ豊富に紹介する予定である。また、特集や連載のようなまとまったものにし難い価値ある情報は、単発記事として積極的に掲載する予定である。皆様に品質誌をご活用いただけるよう努力したい。毎号1つでも多く記事を読んでもらえるようになれば幸いである。

研究会・部会などの学会活動も学会誌に積極的に掲載したい。関係者各位はどうぞ遠慮なくお声がけいただきたい。学会内の活動を会員に周知することは品質誌の重要な仕事である。

研究者の方々は、実務に役立ちそうな研究内容を学会誌でPRしていただきたい。よき出会いを勝ち取るべく、情報を発信し続ける手段として学会誌を使って欲しい。学会誌は微力ながら産学連携を希望する研究者の方々の全力で支援させていただく。

いろいろ申し上げたが、まともに取り組むには1号あたりの分量を増やす必要がある。予算が厳しい品質誌では、企画から印刷までの全プロセスの改善が必要であり、こちらも鋭意取り組んでいる。今後、執筆要項も改訂していくので、品質誌で執筆される方には何卒ご協力を賜りたい。

最後に、品質誌へのご意見を、学会事務局まで是非お寄せいただきたい。今後とも品質誌とのお付き合いを何卒お願い申し上げる次第である。